

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 米穀消費量の計算方法に就て   |
| Sub Title        |   |
| Author           | 高城, 仙次郎   |
| Publisher        | 慶應義塾理財学会  |
| Publication year | 1919  |
| Jtitle           | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.7 (1919. 7) ,p.934(132)- 937(135)  |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            | 雑録  |
| Genre            | Article   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190701-0132">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190701-0132</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

増進の策にのみ限定せられずして富の原因に關する所論を包有し、更に輕微ながら、價值及び價格、分配及び交換等の如き經濟學上に於ける名詞の定義にまでも觸接するに至り、更に社會問題に關する論述をも包含しつゝあるなり。斯くて經濟學は英國に於て政治哲學の適用として發達しつゝありしを見るなり。若し夫れ彼の政治哲學が次世紀に於ける英國並に大陸の經濟思想上に及ぼせる影響の如何に深甚なりしかは固より多辯を要せざる所なる可し。

### 米穀消費量の計算法に就て

高城 仙次郎

從來農商務省は、我内地に於ける一人當りの米穀消費量を計算するに當りて、前年度の米穀産額に各年度の米穀輸移入超過額を加へ、之を各年度の消費總額と看做し、此總額をば各年度末に於ける内地人口の總數を以て除するの方法を採れり。米穀の輸移出量が其の輸移入量に超過せる年に對しては、此超過額を前年度の内地收穫高より差引きて、其年度に於ける米穀消費總額を求むるは勿論なりとす。此方法に依りて計出せられたる明治三十一年以降大正二年迄の一人當り消費額は左の如し。

(附記)以上は前掲 Hobbes の著書の外 James Bonar, Philosophy and Political Economy in some of their historical relations. 1893. William Archibald Dunning, A History of Political Theories from Luther to Montesquieu. 1905. 並に Henry Sidgwick, The Development of European Polity. 1903. より抄録せるものなり。

| 年      | 一人當り消費額 | 年      | 一人當り消費額 |
|--------|---------|--------|---------|
| 明治三十一年 | 石 〇・八五六 | 同 三十九年 | 〇・八五〇   |
| 同 三十二年 | 一・〇六六   | 同 四十年  | 一・〇〇五   |
| 同 三十三年 | 〇・九〇三   | 同 四十一年 | 一・〇五一   |
| 同 三十四年 | 〇・九三四   | 同 四十二年 | 一・〇八〇   |
| 同 三十五年 | 一・〇五六   | 同 四十三年 | 一・〇六七   |
| 同 三十六年 | 〇・九〇〇   | 同 四十四年 | 〇・九五六   |
| 同 三十七年 | 一・一一一   | 大正元年   | 一・〇五五   |
| 同 三十八年 | 一・一八一   | 同 二年   | 一・〇五六   |

備考 本表の數字は大正四年八月農商務省農務局發行「米穀消費量の調査」に據る。

右表に就きて之を觀るに、若し農務局の計算方法が當を得たるものなりとせば、我國内地に於ける一人當り米穀消費量は年々著しき等差あり。今假りに前年度に比して一斗五升以上の増減を示せる年並其増減額を擧ぐれば左の如し。

| 年      | 増減     | 年      | 増減   |
|--------|--------|--------|------|
| 明治三十二年 | 斗 二・一〇 | 同 三十九年 | 一・六三 |
| 同 三十三年 | 一・五六   | 同 四十年  | 一・五五 |
| 同 三十四年 | 一・一一   | 同 四十一年 | 三・三一 |
| 同 三十五年 | 一・五五   |        |      |

勿論米價が騰貴すれば米穀の需用減退し、低落すれば需用が膨脹するの傾向を有するは他の總ての貨物に於けると異ならざる可きも、生活上の絶體必需品とも稱す可き我國の米穀の一人當り消費量が、右表に示すが如く、前年度に比して二割又は三割も増減するが如きことありと思はれざるなり。余は夙に農商務省の採用しつゝある上記の米穀一人當り消費額の計算に就きて多少疑問を懷き、如何にせば正確に此消費量を計出するを得るかを考究しつゝありたるが、其研究の結果の發表は他日に譲り、茲には單に農商務省の計算方法の誤れる點を指摘するに止めんと欲す。

若し毎年の生産額が全部翌年に持越され、其中より輸出又は移出せられたる分量を差引きたる殘額が殘らず同年中に消費され、又其年中に輸入若しくは移入せられたる分量より再輸出

及再移出額を控除せる残額の全部が同じく其年中に消費せらるゝものなりとせば、農商務省の採用しつゝある米穀消費總額の計算法は正確なりと云はざる可からず。然りと雖も、吾人は各年度の生産額の一部分が其年中に消費せらるゝのみならず、其残額の全部(輸移出額を除き)が必ずしも其翌年中に消費せられずして、其の中若干量は翌々年迄持越さるゝことあるを記憶せざる可からず。勿論、生産年度内の消費高、翌年度の消費高、翌々年度への持越高及び輸移出高の四種分量が毎年同一比例を維持するものなりとせば、農商務省の計算方法は必ずしも正確なるものならざるのみならず、計算の簡易なるの長所を備ふるものなりと云はざる可からざるも、此四種分量の比例が一定せるものに非ざるは多言を須ひずして明かなり。例へば、凶作の翌年には貯藏米少なきが爲、其年の新米が其年中に多量に消費せらるゝの常なるに反し、豊

作の翌年には反對の現象を呈するなり。又、輸入米に就きて云ふも之と同じく、各年度に輸入若しくは移入せられたる米穀の全部が其年中に消費せらるゝこと無かる可きは茲に細言するの要なし。如何となれば、十二月下旬に輸入又は移入せられたる米穀は翌年に至りて始めて白米商の手に渡る可ければなり。勿論、輸移入米の翌年持越高が毎年一定せりとせば、各年度の輸移入額を以て直ちに其年の外鮮米の消費量と看做すを妨げざる可からざるも、此持越高が毎年一定せりととは想像すること能はざるなり。

斯くの如く、農商務省の採りつゝある内地米穀消費總額の計算方法は既に誤れるものなるを以て、假りに平均一人當りの米消費額の計算法が正確なりとするも其の結果は吾人の信賴するに足らざるものなりと云はざるを得ざる可し。然るに、此平均一人當りの消費額を求むる爲めに、農商務省の採りつゝある方法も亦誤れり。

同省は此對一人消費量を求むるに當りて、前述の方法に依りて計出せし各年度の消費總額をば各年度末の人口總數を以て除せり。同種類の平均率を計出するに當りて、年度末の人口總數を分母として用ゆるは一般の習慣なるを以て、農商務省の計算方法を特に非難するは或は酷に失するの嫌なきにしも非ざるが如くなるも、米穀消費額の如き重要な計數を求むるには出來得る限り正確なる方法を選ばざる可からざるは勿論なり。一ケ年間の米穀消費總額をば其年末の人口の總數を以て除したりとて、正確なる平均一人當りの消費額を計出するを得ざる可し。如何となれば消費總額は三百六十五日間に消費せられたる米穀の總額なるを以て、平均一人當りの消費額を求めんと欲せば、其年に於ける人口の平均數を分母として用ゆ可からざるが故なりとす。蓋し人口は一月元旦より日々多少増加するものなるを以て十二月三十一日に於ける人口の總數は一月一日の夫れに比して著しく多きを

常とす。従つて農商務省の如く年度末の人口總數を以て各年度の米穀消費總額を除すれば、其の商は當然實際の一人當りの消費額よりも幾分か少量なる可し。尤も、人口の増加率が毎年一定せりとせば、縱令毎年度の計數は正確ならざるも、年々の消費額増減の程度は略ぼ正確に知ることを得可きも、人口の増加率は決して一定せるものに非ざるを奈何せん。

斯くの如く、農商務省の試みたる各年度の米穀消費總額の計算其物が誤れるのみならず、平均一人當り消費量の計出方法にも缺點あるを以て、同省が是れ迄數回發表せる内地米穀對一人消費額は正確なるものと看做すことを得ざるなり。此外、米穀收穫並に人口に關する統計にも幾多の缺點あれど、是れ等の訂正は頗る困難なるを以て、一時不問に附せざるを得ざるも、米穀の消費總額並に一人當りの消費額の計算に關して從來農商務省の採りつゝある方法には改善の餘地ありと信ず。